

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 元太 年齢 12歳 職業・学校名 新井小

ぼくが復興への想いが一番つよいのは、
 くの窓から泣き出すぼくの家の海を渡るまで
 なみかすどくるからとて心配していました
 すると三月十一日に悲劇がやってきた。家
 にかえつてからすぐには母のけい帯にきん具地
 しん運搬が聞えしました。初めは聞いたことの
 ない言でとてビックリしてその後すぐにお母
 さんが
 「早くにげるから車にのって」とお母さんが
 ったのでぼくも乗って車にのり出した。
 中学校まで行くとぼくの友達がお人ないてお
 どりいていたり黒い煙がぼくの家にあそいか
 が、とてビックリしました。ぼくたちは
 川岸のじょうかですの日まごした。三日目以
 後は、他人の家とそのまま半年ぐらいていて、
 おちついてから新井にもどるとまたのは、二
 年の夏です。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 橋浦 那和 年齢 12 歳 職業・学校名 新地小学校

私は東日本大震災が起きるまで、バレーの
練習も一日でも早くした分、たいてい、学校
の友達や親戚の人が無事であげく願って
いました。
そして、震災の次の日は今までの全くなり
う日々が始まりました。でも、いろいろな所
から支援をいっしょにもらい私が今まで考
えながら、たいてい考えるように母、いました
それは、知らぬ人のやくにたつて下さる。
私は震災前まで自分が得ることしかやりま
せませんでした。母の、困ってその母もあつ
た母や外国母の支援募金に自分から進んで
参加することになった。たいてい、震災で支援し
てくれなかった、たいてい私も、いけるだけ
自分からいろいろな人に支援すること、私
が感じた想いもいろいろな人にも感じてもらい
たいから下さる。
そして、震災から4年たった、前のあつに
バレーの練習も出来るようになって、毎日、出来
事でした。うれしかったです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

匿名希望

私	た	ち	は	、	1	年	生	の	時	に	東	日	本	大	震	災	を	経		
験	し	ま	し	た	。															
そ	の	時	は	、	大	き	く	地	面	が	ゆ	れ	と	て	も	が	、	く		
ソ	し	ま	し	た	。	私	の	家	族	は	、	い	ろ	い	で	お	な	ん	所	
へ	向	か	い	ま	し	た	。	そ	の	夜	は	、	お	母	さ	ん	が	持	っ	
て	い	た	ワ	ッ	キ	ー	で	、	過	ご	し	ま	し	た	。	そ	の	後	は	
お	母	さ	ん	の	妹	が	冷	た	う	食	品	を	買	っ	て	い	た	の	で	
そ	れ	を	食	べ	ま	し	た	。	外	は	が	れ	き	で	!!	、	ば	い	て	
し	た	。	何	火	も	の	人	が	せ	く	な	っ	て	い	る	と	考	え	る	
と	ど	〜	と	し	ま	し	た	。	そ	の	後	も	お	な	ん	の	後			
お	な	ん	の	お	か	け	で	生	き	て	、	こ	の	新	地	町	に	生	ま	り
い	る	の	た	と	思	い	ま	す	。											
こ	こ	新	地	町	は	復	興	が	進	ん	で	い	ま	す	。	今	で	は		
駅	や	、	橋	な	ど	か	っ	く	ら	れ	て	い	ま	す	。	こ	の	復	興	
は	町	の	人	た	ら	の	お	か	け	で	あ	、	と	て	も	感	謝	し	て	
い	ま	す	。																	

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 照瑞 年齢 11 歳 職業・学校名 新地小学校

震災から今に至る状況は、震災がおおきく直
 後には、建て物が崩壊し、家や建て物が津波で
 流され、一部の人は、学校でくらすまふにな
 ったりしてまいりました。しかし今は、建て物は
 復元するようになり、家や建て物は、件々、い
 直り、仮設もできて、さらに、高速道路が
 でき、線路も今年の十二月には、できると
 思っております。今の状況は、先んずけ
 は無くも、先んずけ行くといい人だと思
 います。その先んずけ行くといい人だと思
 います。今後進むべき未来は、不安が無い、明るい未来
 だと思っております。今は、まだ復興までは、行っ
 ていませんが、まだ仮設に住んでいる
 人だといふし、家が無い人もいます。今
 ながら今後進むべき未来は、不安が無い、未来
 だといふ人は、思っています。そのためにも、さ
 んが先んずけ行くことが大切だと思っております。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 荒明花

年齢 12歳

職業

学校名

新地小学校

東日本大震災から約6年がたきました。震災
 がおきた時の私は1年生で家にがおこって
 いるか分からいまま、車に乗りました。わたし
 がママも。車いすの中に残っているのは、
 黒い波が新地町区のみこんでいる様子です。
 あの時は、これかどうすればいいんだらう。
 未来の自分は、なにをしようかと思う
 像が全くつきませんでした。それから、1年
 2年...5年、6年とあつた今は、仮設住宅に
 住む人たとも減り、新地町も復興しつあり
 ます。私はあと少しで中学生になります。色
 んの友達も増え楽しい中学校はあつという間
 に過ぎて、高校生を卒業するころの新地町は
 震災前よりも発展していて、人がいっぱい集
 まり、緑が豊か新地町でありたいです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 菊地 蓮華

年齢 11 歳

職業・学校名 新地小学校

1 東日本大震災から約5年がたります。早く達
 2 福島県民以外の人達も、もう震災を忘れてい
 3 る人もいると思います。でもおなじ福島県民
 4 でも家族や親せきが亡くなった人もいれば、
 5 家族や親せき全員亡くなった家、老家もあり
 6 ます。早くの家体、山の片の家合らたのでな
 7 ら一人とも死ななかつたのでよかったです。
 8 早くのすんでいる新地町は、今年いっぺん
 9 駅ができるそうなのでうれしいです。早く
 10 家のまわりにも田んぼがほしいと新し
 11 いか家ができたのでうれしいです。駅の中には、おい
 12 しい食堂や新地のとく土産品などが売られ新
 13 地がもっと盛り上がると思うのでうれしいで
 14 す。ほかに色々な事もつなごうと
 15 早くをとうれしいです。
 16
 17
 18
 19
 20

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 阿部 日菜子 年齢 12 歳 職業・学校名 新地小学校

今の新地町は、つなみでながされた駅が今は、駅ができてきています。

今の田も色々とかわって、います。つなみでながされたときは、田が物ので見えなくなっていたり、田の色がわからなくなっていました。でも今の田は、物がたくさんあって、いるし、色もキレイになりました。その直すのに時間は、かかるけど、時間をかけてやると前の新地町にもどっていきます。

最後は、みんなが、この新地町を、楽しかった、キレイと言ってくれるような新地町にしていきたいし、新地町の未来は、明るくて、新地町住民や色々なところに住んでいる人に「ここは、いい町だね」といってもらえる未来にしていけたらと思います。

「東口大十郎」からの信歸人の相い 函 草 田 紙

匿 名 希 望

ぼくは、震災から5年たちまだ復興して
 ないところがあるけどまだ行方不明者がいる
 のでその行方不明の人とその家族のところを
 届けてほしいしまだ帰ってこない人も家族
 にあいたいと思つてほしいと思います
 もし日本がまっとうな国になったらその行方
 不明なものをまだ生かすように願つた人がきて
 もだいじょうぶにしてほしいです
 ぼくの家族とかかけがいのこつてしまひまは
 かりあげごめんはすんでいま知ること
 みんなとはなれて友達とおそろふことが教人も
 かまかひのびやくいふはやくたると
 互にすいぶんと教人しかあてないけどみんな
 とあそぶようにしたいです
 たからもう復興してさみしくないようにな
 りたいとたのしくすべししたいです
 ぼくも二のめがけほまにかつどうしては人
 たちは何回でもいひからすべしとておかくはた
 ちをいひます

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木洋匡

年齢 12 歳

職業・学校名

新地小学校

東日本大震災が、復興への想い
 震災を経験して地震の怖さと津波の恐怖を
 知りました。地震がまたあと何十分後かに津
 波が来る事を知りませんでした。それで津波
 が家や建物をあっという間に押しつぶして
 おかろましました。そのせいで多くの命が失
 りに及び多くの人達が帰って来ませんでした。それか
 ら原発問題も出てきて今も不安な気持ち
 が続いています。

町や村はだいぶ復興して来ました。しか
 し放射能は目に見えないのが心配です。
 今では、地産の野菜も増えていますが、
 これからはこの野菜も魚も産んで食べ
 れるような所にならなくてほしいです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 大田 祐磨 年齢 12 歳 職業・学校名 新地小学校

昨年が天災災害今年で迎えるにはまだ途程が
 不明です。この震災は、
 死者が多くも、復興には、とても時間がかか
 ります。という事だ。今、
 そこで、ぼくが復興への願いや、想いを
 書いて書きました。
 一つ目は、復興のためには、何を
 出来るかです。
 ぼくたちは復興のためには、何を復立ちま
 せんか。今の状況でも、と時間がかか
 ります。復興進みません。そこで子供たちに、
 出来る事は、何か、出来ることをやる
 方法を考えたい。少し、復興に一つ近
 づくと思えます。
 二つ目は、仮設住宅などで、住む人のイ
 ンパクトを減らすことだと思います。
 高層ビルや子供で楽しめるパークがあ
 りたい。景観、また、そのほか、に
 関心があると思えます。そして、高層ビルの
 建設も、建設費がかかると思えます。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木光成

年齢 11歳

職業・学校名 新地小学木交

ぼくの考える東日本大震災からの復興は、
 地の魚が食べられるようになることです。
 震災前は地元でとれたコオナゴやおじりちゃん
 さんが釣ってきたカレイをおばあちゃんが焼い
 て食べました。とても脂がのっておいしく
 食べることができ、何匹でも食べていた
 と思いました。またおじりちゃんのようにカ
 レイや色々な魚を釣ってみたいと思いました。
 しかし震災があつてからはりままで食べられ
 た魚が食べられなくなりました。魚
 が放射能に汚染されておそれがあるから
 です。もし汚染された魚を食べた場合、人間
 に害をあたえる可能性があるのです。地元の
 魚を捕ることが出来なくなりました。
 ぼくは魚が好きなので、地元の魚が食べられ
 ないのは、とてもショックでした。
 早く地元の魚が食べられるようになれば
 いいなと思っています。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

匿名希望

私の東日本大震災からの復興への想いは、いつも通り習習い事や震災がそこあなか、た家に帰れることです。

習事は三年生のときから始めたので、そのころはとくに関係はありませんでしたが、毎週水曜日に習事教室に行くのが私の日常の一つです。

家に帰れる事は、震災前は普通だと思っていましたか、震災でこわれた家がたくさんあるのを海沿いの家々ので、みる事ができました。

震災のとき、家はこわれたばかりで、思っていたり、残り、残っていたので良かったです。

私は、震災後^直にできなかつた事が今では、できるよになりました。なので、震災直後にはできなかつた事をできるような環境になったので良かったです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 石田 悠真 年齢 12 歳 職業・学校名 新地小

ぼくは、サッカーをやっていたこの大きな東日本大震災がおこりました。

そして、ぼくたちはほうしゃせいのせいでサッカーやいろいろなことができなくなりみんなこまっていたいました。

でも、元気にしてくれたのはおにぎりやみかんを持ってきてくれた自衛隊やいろいろなボランティアの方々に元気にしてもらいました。

そして、サッカーの試合があつた。この試合では一試合目で負けてしまいみんな涙を流してくやしかつていて、自分たちのバツタが置いてある場所に行つてコーチの話を聞いていて、東日本大震災のときの話を聞いてぼくはとこも感動してしまいみんなも感動していました。

そして、ぼくは東日本大震災が過ぎたいまはとこもみんなの笑いが多くいい生活をおくっているのかなあと思つています。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 宇藤 亮 年齢 11 歳 職業・学校名 新形小学校

私、今「東日本大震災」から身経って想
 象とほつ二つあります。それは海側の工事
 成進んでいくという事です。二つ目は、鉄
 道の工事です。海側の工事は、前と比べたら
 木屑などのゴミが減った箱が元にもどったと言
 うじつから、あります。鉄道の工事は、線
 路の工事が新しく始まっています。日本各地から
 色んな人が来てくれるという所が私の中で
 は、思っています。
 そして、私が考える復興への想いは、海が
 きれいなブルーで緑の物、自然豊か新形町
 になっただけで、とてもすてきだ付あと思
 います。

氏名	:	佐々木徹	年齢	:	52歳	職業	:	教員
東日本大震災から五年が過ぎようとしてい								
ますが、相双地方においては、未だに原発事								
故の影響を大きく受けています。								
福島県の復興のための最重要課題の一つが								
教育です。震災の経験を後世に伝え、福島県								
の将来を担っていくのは子ども達だからです。								
今年三月に学校現場においては一つの節目を								
迎えます。それは、震災当時小学校一年生だ								
った子ども達が小学校を卒業し、中学校一年								
生だった子ども達が高校を卒業することです。								
この子ども達が、震災からの五年の体験をど								
のように想い、地域の未来の姿をどのように								
描いているのが福島復興の未来予想図です。								
学校現場では、多くの教職員が震災当時の								
勤務校を離れています。学校として震災の経								
験を引き継いでいくことは簡単なことではあ								
りませんが、福島の復興を担う子ども達に、								
夢や希望を持って自分の言葉で語らせること								
が教育の大きな使命であると考えます。								

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 黒智馨美 年齢 11歳 職業・学校名 新地小学校

私は、早く福島県の海がにぎわえる場所に
なつてほしいです。

なぜなら、去年の夏私は福島、子応援プロ
ジェクトに参加し、その際に大分県の田ノ浦
ビーチという所に行きました。海岸や海には
沢山の人が来ていてにぎわっていました。そ
れを見て私は、福島県の海もこんな風に、に
ぎわって沢山の人が楽しめるように早く
なつてほしいと思いました。そのためにも
放射線が低くなり、がれ木や汚染物を片づ
け安全に生活ができる所になると良いと思
います。また、福島県が安全だということをし
り出せるイベントが沢山あると良いと思
います。例えばその土地で取れる海の食べ物
や農産物をふるまったり、海の家を建てたり、
海辺のスポーツイベントを行ったりして、
他の県から注目をあられるといいのではない
かと思いました。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 寺島 雄子

年齢 12 歳

職業・学校名 新地 小学校

私は、将来福島県が安心、安全な県になっ
 ていてほしいです。理由は、津波は原発が
 爆発したせいで多くして帰りたい人を帰れ
 ない状態が続きました。食べ物や水道水を安
 心して飲食できなく、いつ安心して飲食がで
 きるか不安でした。津波でおぼりの家がな
 くなりました。なので、将来は安心して食べ物
 や水道水を飲食できるような、してほしいで
 す。除染も7日でも早く終わってほしいです。
 他にも、街灯を増やすなどの安全面にも、
 気を配ってほしいです。

氏名 加藤 南穂

年齢 14 歳

職業・学校名 松陽中学校

私は東日本大震災を経験したときはまた小
 学3年生で帰りの会が終わるところでした。小
 さい地震が来て皆がざわつき始めたとき、い
 きなり揺れが大きくなり、机の下に隠れて揺
 れが収まるのを待つしかなく、校庭に避難す
 ると泣いている子や先生達が窓から外へ皆の
 荷物を落としているのが見えました。親の迎
 えがなかなか来れない人達は体育館へ移動し
 ストーブや毛布で暖かくして過ごしましたか
 迎えに来て帰ると、家の中を確認してからテ
 レビを付けると海とは反対方向に流れる津波
 が見え、その後に原発の事故が起こったこと
 を知りました。東日本大震災は主に沿岸に大
 きな被害が出ましたが、震災に伴った原発事
 故でまた多くの人達がその影響を受けて、大
 変な状態が続いています。私は、津波や地震
 で受けた被害は今もまた復興で少しずつ元
 に戻っていますが、原発事故で出た影響が、全
 て元に戻りに戻ったときに、本当に復興したと
 いえると思います。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 大谷 結美 年齢 13歳 職業・学校名 飯館中学校

震災後の最初の学校は、飯館の小学校3校
 が合同で授業を行いました。その時は、毎日
 一緒にいて当たり前前の友達もいなくなりまし
 た。私は人と話すということが苦手でした。
 だから友達をまた新しくつくるということが難
 しく、朝、学校に行くのもつらい時期もあり
 ました。そんな中、つらかったことも、悲し
 かったこともあったけれど家族の支えもあり、
 震災前のように当たり前前に学校へ行くことも
 できるようになりました。

このような経験をして、一人で生きること
 はできないし、誰かの支えがあるがらいつい
 つ成長できるということを改めて感じました。
 私は将来の夢は決まっておいませんが、私
 は家族や友達に支えてもらってここまで育
 つことができたので、私も将来誰かを支えて
 あげられるような人になりたいと思うし、誰
 かを支えられるような仕事につきたいです。

氏名 佐藤 慧星

年齢 13 歳

職業・学校名 佐藤 慧星

震災後、苦勞、不便だ。たことは、
原発事故で避難して、どこに行くのかわから
なくて大変で、家族みんななでにげて、
そして色々な場所に行けど、
飯通小学校にもど。て来るこができたとき
はすごくうれしか。たです。
震災がおきたときは、使える物が少なくな。
て、すごく不便でした。
また飯通村がもどれるといいなと思いました

◇
◇
◇
今後の自分の目標、希望は、問題が難しい
ので、わかるようにがんばりたいです。
そして、行きたい高校に行けるように、した
いです。
そのためにも、がんばって勉強をして、
仕事をできるようにしたいです。
そのためにもがんばりたいです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 神代 優太 年齢 13 歳 職業・学校名 飯館中学校

震	災	か	ら	も	う	す	ぐ	5	年	に	な	ら	う	と	し	て	い	ま	す	
が	、	こ	の	約	5	年	の	間	で	た	く	さ	ん	の	苦	勞	や	悲	し	
み	や	憎	し	み	が	生	ま	れ	ま	し	た	。	震	災	当	初	は	電	気	
が	な	く	、	ス	ト	ー	ブ	と	ろ	う	そ	く	一	本	で	暮	ら	し	て	
い	ま	し	た	。	少	く	な	い	ガ	ソ	リ	ン	で	近	く	の	店	に	行	
き	、	食	料	を	得	る	た	め	、	長	時	間	外	で	待	ろ	ま	し	た	。
何	日	か	後	に	カ	ー	ナ	ビ	の	テ	レ	ビ	で	初	め	て	震	災	で	
の	被	害	を	知	り	、	そ	れ	と	共	に	原	発	事	故	に	つ	い	て	
も	知	り	ま	し	た	。	そ	の	光	景	は	ま	さ	に	地	獄	絵	図	で	
し	た	。	津	波	の	様	子	、	崩	れ	落	ち	る	建	物	、	悲	鳴	を	
あ	ず	る	人	々	、	跡	形	も	な	い	町	並	み	を	僕	は	見	ま	し	
た	。	原	発	事	故	に	よ	る	放	射	能	漏	れ	に	よ	り	村	を	は	
な	れ	、	学	校	で	の	友	達	と	の	別	れ	を	、	た	幸	い	体		
験	を	し	て	ま	し	た	。													
今	後	の	自	分	の	目	標	は	、	震	災	で	心	の	傷	を	負	っ	た	
人	達	の	傷	を	癒	す	こ	と	で	す	。	そ	し	て	、	町	の	復	興	
と	共	に	、	僕	も	誰	か	の	支	え	に	な	る	と	決	心	し	ま	し	
し	た	。																		

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 須藤 徳香

年齢 13 歳

職業

学校名 飯館中学校

震災と今では、友達が遠くへ行ってしまった
 てなかなか会うことができなくなり悲しいで
 す。ですが、支えてくれる人が居ました。そ
 れは家族です。震災が無ければ爆発しなけれ
 ば離ればなれではなかったのにと考えた事も
 沢山ありました。だけど、この震災が無けれ
 ば多くの人と関わりがありませんでした。
 飯館村の時は、歩いて学校に行っていました
 た。ですが今はバスなので大変です。
 そして、私が大人になったらなりたい職が
 あります。それは、看護師になり少しの多く
 の人を助けてあげたいからです。震災があっ
 た時は何もできなかったことがとてもくせし
 かったことが一番看護師になりたい理由です。
 今後の、復興に必要な事は、震災があった
 ことを誰一人忘れてはいけないことです。こ
 れは、本当に忘れてはいけないと思います。
 そして、私が大人になったら看護師になり
 少しでも多くの人を助けてあげたいです。
 まだ、震災を知らない人に知らせたいです。

氏名 樋口 さくら 年齢 13 歳 職業・学校名 飯館中学校

私	が	震	災	前	の	生	活	と	震	災	後	の	生	活	を	くら	べ			
て	大	変	だ	と	思	っ	た	こ	と	は	普	通	の	水	道	水	が	飲		
め	な	く	な	り	、	水	を	買	っ	て	い	る	こ	と	と	米	も	作	れ	
な	く	な	っ	て	し	ま	っ	た	こ	と	で	す	。	ひ	な	ん	す	る	前	
は	水	道	水	も	米	も	買	わ	な	か	っ	た	の	で	、	家	族	の	人	
も	苦	労	し	て	い	ま	す	。	だ	け	ど	、	飯	館	か	ら	ひ	な	ん	
し	て	良	い	出	会	い	も	あ	り	ま	し	た	。	そ	れ	は	三	校	が	
一	緒	に	い	っ	た	。	色	々	な	人	に	出	会	い	友	達	が	増	え	た
こ	と	で	す	。	み	ん	な	と	仲	良	く	な	れ	て	学	校	生	活	も	
明	る	く	楽	し	い	で	す	。												
◇																				
私	の	今	後	の	目	標	は	、	お	世	話	に	な	っ	た	人	や	飯	館	
の	そ	ん	民	の	人	々	を	あ	い	ま	し	て	も	笑	顔	に	し	た	り	、
感	謝	の	言	持	ち	を	表	し	た	り	で	き	た	ら	い	い	な	ま	と	
思	い	ま	す	。																
そ	の	た	め	に	私	は	、	学	校	行	事	な	ど	に	一	生	懸	命	取	
り	組	ん	で	笑	顔	を	与	え	た	い	と	思	い	ま	す	。				
そ	し	て	私	達	も	笑	顔	を	絶	や	さ	ず	何	で	も	一	生	懸	命	
や	ら	う	と	思	い	ま	す	。												

氏名 高橋 智

年齢 13 歳

職業 学校名 飯館 中学校

震災後の苦勞や不便の中で自分がかんばって
 きたことは、震災後でも飯館村にいた時の
 ように明るく元気に学校生活を送ってきたこ
 とです。もどね左のこをいつまでも気にし
 てやることからは先、良のこが左のこと思
 たからです。

そして、今の様子では友達と仲良く生活し
 てゆき今の生活にも慣れてきました。また、今の
 家にもだんだん慣れてくることができました。

今後の自分の目標は、どんなにづらなこと
 があっても前に向かって進むことです。その
 ために、必要なことは、常に前向きな考えを
 持つことです。そして明るい学校生活を過ご
 してゆきたいです。

氏名 糸川 渉

年齢 12 歳

職業・学校名

飯館中学校

僕は、東日本大震災のことはほとんど忘れ
 かけて覚えていません。震災後に不便だ
 ことは、水が出なくて、飲めな
 りとお風呂にも入れな
 かった事と外で遊ぶことができない
 事です。苦労した事は、寝るの
 がいつも車の中で
 した事です。家族ががんば
 ってきた事は、い
 つも僕達の事を考えて生活して
 くれた事です。今現在は、外で
 遊ぶこともできるし水
 も飲めるしお風呂に入るので
 便利です。
 今後の自分の目標は、ゲーム
 クリエイターになる事です。その
 ために必要だと思う事は、国語
 の作文かなどを多くに付ける事、
 数学の計算などができるように
 する事、英語の音、味や発音
 などができるようにする事、技
 術の物を上手に作れるように
 していく事、美術の絵を描ける
 ようにがんばりたいです。そして
 社会に望むことは、一生懸命勉
 強をがんばれるように、何事も
 手こずらずして失敗したらな
 ぜ失敗したかをよく考えて生
 活していきたいと思
 います。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 糸田 利樹 年齢 13 歳 職業・学校名 飯塚中学校

僕が東日本大震災を起し、約5年の間に
 最も苦労した事や不便だと思、たことは、毎
 日シャワーがあげられない事と、見知りぬ人と
 の共同生活です。まが毎日シャワーがあげられ
 ない事についてはずいぶん不便でした。今まで
 は毎日シャワーが湯に7分たつて震災が起
 きてからは、まれにしがあげられ、あげられ
 たしても次の人が待つてたが分、ゆ、くり
 しておませんでした。次に、見知りぬ人と
 の生活は、苦労しました。最初は見知りぬ人
 との生活は、慣れたのには難しかったです。
 今の自分の目標は特に決まてはいません。
 だけで将来のために色々な事を、経験して
 自分にあつた目標の仕事を見つけた、そのた
 めに普段の生活態度や授業態度をよくして将
 来のためにつなげていこうと思、います。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 高橋 栄美

年齢 13 歳

職業・学校名 飯館中学校

私は、海の近くではなか、たので津波の恐ろしさは分からないけどテレビで津波の恐ろしさをじりました。ビルの屋上まで波が来ていて、たくさんの方が亡な、ていてきぬ家族と離ればなれになって、もうこんなことほおこらないでほしいです。

私は、将来、福祉の仕事をしたいと思っています。なぜなら、お年よりの人がもし大きな地震がおこ、ても自分が助けられるようになりたいからです。福祉の仕事にしたら、体の不自由な人でも、リハビリをして、少しでも体を動かせるようにしてあかたり、家族と離れてくらすお年よりの人をはかましてあかたいです。

氏名 伊東琴美

年齢 12歳

職業・学校名 飯館中

震災から5年がたったから今の生活になれ
 ることができた。そして、飯館にいたらできな
 かったこともできるようになりました。けど、
 飯館でできていたこともできなくなっ
 てしま
 いどっちが良いのかわからなくなっ
 てきてい
 る部分もあります。それに中学校の場所が変
 ってしまうのに家族は困って迷って
 います。
 今の状況になれてしまうと、新しいことに挑
 むのがなかなか難しくなっ
 てしま
 うくらい時
 がたっているのです。

でも、私達子供には、将来の夢があります。
 私の夢は、看護師になることです。人の不幸
 や悲しみを少しでも減らしてあげられればと思っ
 たので看護師にしました。でも、私一人じゃ
 人々の悲しみを全て減らすことができないで
 す。なので私が社会に望むことは、人々の意
 見をしっかり聞き、聞いたうえでほんたん
 してほしいです。一つの意見では、たりない
 と言うことを知ってほしいです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 齋藤 さくら

年齢 13歳

職業・学校名 飯館中学校

東日本大震災がおきた3月11日、私は預かり保育のたんぽぽハウスにいました。たんぽぽハウスで宿題をしていると、急にグラッとゆれて、2分くらい大きざゆれていました。その夜、寝る前に、お母さんと叔父さんが、「えっ、爆発したの。」と話していましたが、私には何のことも分からなくて、次の日にひなんしました。すぐ帰れると思っていました。が、もうあれから5年もたちました。

今は仮設の中学校へ通っています。友達と遊んだりが話したりして楽しいのですが、中学校を標にもどす。という話を聞きました。私は反対です。村にもどしたら転校も考えなければいけないし、お母さんも「まだ大人だ。戻ってないのに、どうして子供を先に戻すのかな。」と言っていました。放射線だってあるし、もう少し仮設校舎でいいと思います。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙
氏名 石川 萌 年齢 13 歳 職業・学校名 飯館中学校

今まで、普通に平凡に過ごしてきた日常が
 とつ然に変わってしまった東日本大震災。水
 、火、電気など使えなくなりました。
 そんな中でも電気が復旧したテレビを見ると
 放射能が外に出た。というテレビが
 あり、すぐ避難勧告が出され、村から離れま
 した。それでも、支援をしてもらったりにな
 がら、みんなできんばってこめました。今は
 中学校にも入り、安定した生活を送っていま
 す。

私は、復興のためには何か一つでも力になれ
 たいなりたいです。そのために必要だと
 思うことは、行動力です。自分の中だけで、
 こうしたいと思ってても実現することは、難しい
 と思うからです。そして、こういう願いを聞
 いてもらう場も必要だと思うので、実行うし
 てもらいたいです。

氏名 細杉くるみ 年齢 13歳 職業・学校名 飯館中学校

震災から5年経ち、今は安定した生活が
できています。震災が起きてからは、苦勞する
ことがたくさんありました。学校をや、と行
けると思、ていてもスクーにバスでの登校で
急い時間乗、ていないといけなかつたので、
最初は慣れず、大変でした。でも、家族や先
生方がいてくれたおかげで、どんなに辛いこ
ともがんばることができました。今は、辛い
ことがあ、たけど、そのが家族という大事な
存在があると思うことができました。
◇
今後の目標は、私たちができることが何な
めが見つけて実行でまたうなと思、います。
5年経、てもまだ生活に苦勞して、いる人はた
くさんいると思、います。そんな方々に少しで
ても笑顔にな、てもらえるようがんばりたいで
す。私の夢はグラフィカルアーティストです。た
くさんの方が笑顔になれることが私の願、いで
す。自分も経験して、るからこそできることを
たくさん行、ていきたいです。
◇

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 坂本 春菜 年齢 13 歳 職業・学校名 飯館中学校

あの大きな地震があった後、私はなにをすればいいか分からなくなっていました。学校にも行かばい、友達にも会えない、父は急に仕事を休んで、いつも家にいるはずの祖母が家にいない。いつもと違う環境に、疑問ばかりが増えていきました。しばらくすると、母がいとこの家に泊まりに行こうと言い出しました。なぜか理由を聞きました。そのとき、私は始めて震災があったことを知りました。

今、私にはやりたいことがあります。それは、震災があったから特別にしてみらうのではなく、自分たちよりも大変な人のために役に立つことです。私の村には津波はありませんでしたが津波で家や家族を失っているのなら私が元気付けてあげたいです。今まで、しても、た恩も、ちゃんと返していきたいです。今の私にはやることが限られていますか、高校生や大学生にな、たらやることが増えると思います。今は周りの人達を吹奏楽で元気付けられたいです。

匿名希望

3月11日に東日本大震災がありました。その時、私は小学2年生でした。初めての地震だ。たのでじ、ワリしました。その後は、トイレに行、ても水は流れず、電気もつかなく、食べ物を買いにも行けなくてとてもつらい1日をずー、とくり返し今までおくら、てきました。や、と学校にかよえる日かきたり、お買物にも行けたりしてどんぴんと今までの不便だ、たことかできたりなびがありました。そして今、ときどき地震がくるだけで今の生活はべんりにな、てきました。今後私は、家族をささえたいけるように努力をし、家族の生活をらくにしてあげたいなと思いました。そして、私はまだ自分の将来の夢を見つけてそれをた、せいできるようにしたいです。また将来の子どもたちやいろいろな人たちに私たちが経験したことを同じように経験しないようにしたいなと思います。そのためには、日ごろから節電してまた電気がたないなびでいであらなないようにしたいです。

氏名 細川 結衣

年齢 12 歳

職業

学校名 飯館中学校

2011年3月11日に起きた地震に少しびっくりしました。始めの頃、私はなんで電気が通らなくな、たんだろうと少し不思議に思、ていたし、お母さんは何で分か、てたのに地震のことを知らせな、たと原発の人が映、ていたテレビに怒、ていました。学校も川俣中学校の校舎を貸りて3校合同で2年間をすごしました。草野・白石とは気が合いそうになく仲良くできませんでした。5年生になり仮設校舎に移りました。でも、友達がまた一人転校してしま、てとても悲しか、たです。家も狭いし、バスの登校は長くてとてもたいくつでストレスがたまりました。でも今は、家が広くな、て、仲良くな、た子も増えたので普通に楽しいです。それに福大に入りたいという目標を見つけました。だから少しずつ自分にあ、たやり方で学び成績を伸ばしていきたいと思、ています。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 鳴原 真琳

年齢 19 歳

職業・学校名

飯館中学校

震災から5年経ち、今では生活が安定して
 います。震災当時は、水が出ないことや、電
 気がつかない、火が使えないなど大変なこ
 とがたくさんありました。しかし、東日本大震
 災を知った方々が、すぐに支援してくださ
 いました。そのおかげで、みんなの顔から笑顔
 を見るのができました。本当に感謝してい
 ます。そして、今はたくさんの方と友達ができ、
 楽しく生活しています。

◆ ◆ ◆
 今後は、私達が支援されることです。支援し
 てくださる方がいたから、私の今があると思
 います。震災や何か大変なことがあったら、
 私達が支援する側にいたいのです。今も、不
 安定なことはありますが、目標に向かって頑張
 りたいと思います。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 今野 愛梨

年齢 12歳

職業・学校名 飯館中学校

震	災	後	の	事	。	す	ぐ	水	が	出	な	が	。	た	し	。	が	ソ	
リ	ン	な	ど	も	あ	り	ま	せ	ん	で	し	た	。	友	達	と	離	れ	た
リ	。	家	族	と	連	絡	も	と	れ	な	い	状	態	で	し	た	。	今	も
自	分	の	故	郷	に	は	帰	れ	ま	せ	ん	。	学	校	も	ス	ク	ー	ル
バ	ス	で	か	よ	っ	て	い	ま	す	。	運	動	も	あ	ま	り	で	き	ま
せ	ん	。	み	ん	な	離	れ	て	い	て	。	今	は	一	年	生	が	一	組
し	か	あ	り	ま	せ	ん	。	あ	た	り	前	に	。	た	事	が	今	は	で
き	ま	せ	ん	。	こ	の	震	災	で	。	あ	た	り	前	と	は	。	ど	れ
だ	け	大	切	な	の	か	が	ま	く	分	か	り	ま	し	た	。			
今	後	の	自	分	の	目	標	は	。	将	来	人	を	笑	顔	に	出	来	
る	職	業	に	つ	い	て	た	く	さ	ん	の	笑	顔	で	あ	ふ	れ	る	よ
う	に	し	た	い	で	す	。	ボ	ラ	テ	ィ	ア	に	も	取	り	組	み	た
い	で	す	。	そ	の	た	め	に	は	。	ま	ず	私	が	笑	顔	に	な	ら
な	い	と	い	け	な	い	し	。	も	ち	ろ	ん	勉	強	や	。	今	を	大
切	に	し	。	ど	ん	な	事	が	あ	っ	て	も	人	と	協	力	し	て	笑
顔	で	生	き	て	い	ま	す	。	こ	れ	か	ら	。	人	の	気	持	ち	も
考	え	て	人	の	た	め	に	な	る	こ	と	を	自	分	か	ら	ど	ん	ど
ん	と	り	組	ん	で	い	ま	す	。	そ	し	て	。	日	本	中	。	世	
界	中	の	平	和	を	願	い	ま	す	。									

氏名 高橋 ひな子 年齢 12 歳 職業・学校名 飯館 中学校

私	が	が	ん	ば	っ	て	こ	れ	た	の	は	、	友	達	と	か	み	ん		
な	震	災	の	話	を	し	な	か	、	た	か	ら	た	と	思	い	ま	す	。	
震	災	で	こ	ん	な	こ	と	あ	、	た	な	と	か	ば	、	が	り	言	っ	
て	る	と	思	い	お	し	て	つ	ら	く	な	、	ち	ゃ	う	か	ら	、	そ	
ん	な	話	は	し	ま	せ	ん	で	し	た	。	そ	れ	で	、	前	に	進	め	
た	と	思	い	ま	す	。	も	う	一	つ	理	由	が	あ	り	ま	す	。	そ	
れ	は	、	周	り	の	人	た	ち	の	支	え	で	す	。	た	く	さ	ん	支	
え	て	も	ら	、	た	か	ら	こ	こ	ま	で	こ	れ	た	と	思	い	ま	す	。
今	後	の	自	分	の	目	標	は	ま	だ	よ	く	震	災	の	こ	と	を		
知	ら	な	い	人	に	た	く	さ	ん	知	、	て	も	ら	う	こ	こ	で	す	。
ま	た	夫	き	な	震	災	を	繰	り	返	さ	な	い	よ	う	に	知	、	て	
行	動	し	な	い	と	い	け	な	い	と	思	い	ま	す	。	そ	し	て	、	
そ	の	た	め	に	必	要	な	こ	と	は	震	災	、	故	郷	の	こ	と	を	
志	れ	な	い	こ	と	だ	と	思	い	ま	す	、	志	れ	て	し	ま	え	ば	
何	も	伝	え	る	こ	と	は	で	き	ま	せ	ん	、	次	の	人	た	ち	に	
伝	え	る	こ	と	が	復	興	に	必	要	だ	と	思	い	ま	す	。			
震	災	の	時	に	見	た	テ	レ	ビ	の	中	で	津	波	で	け	が	を	し	
た	人	た	ち	を	医	師	の	人	た	ち	が	手	あ	て	を	し	て	い	て	
感	動	し	ま	し	た	。	私	も	医	師	に	な	、	て	活	躍	し	た	い	
で	す	。																		

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 阿部 華希

年齢 13歳

職業・学校名

飯館中学校

東	日	本	大	震	災	の	時	私	は	ま	た	2	年	生	だ	た					
の	て	初	め	は	バ	ス	通	学	が	と	こ	も	楽	し	お	て	し	た			
で	も	私	は	毎	年	3	回	リ	日	が	来	る	た	び	に	恐	う	の			
で	す	。	「	み	ん	な	。	変	わ	。	た	な	」	と	変	わ	。	た	と		
思	う	の	は	。	ま	ず	。	性	格	や	心	が	と	こ	も	変	わ	。	た		
と	思	い	ま	し	た	。	大	震	災	か	ら	1	年	。	2	年	と	年	を		
重	ね	る	た	び	に	荒	れ	て	い	ま	し	た	。	で	も	。	そ	の			
ら	ち	高	学	年	に	な	る	に	っ	た	て	高	学	年	と	言	う	が	う		
イ	ド	を	持	ち	は	じ	め	ま	い	め	に	授	業	を	受	け	る	よ	う		
に	な	り	ま	し	た	。	今	で	は	。	前	の	た	と	こ	い	た	時	と		
比	べ	る	と	。	「	み	ん	な	。	変	わ	。	た	な	」	と	思	い	ま	し	
た	。																				
上	の	こ	と	を	お	ま	え	て	。	私	は	言	い	ま	す	。	今	の			
生	活	を	こ	の	さ	な	い	で	ほ	し	い	と	。	そ	れ	に	。	こ	れ		
の	か	ら	生	ま	れ	る	子	供	に	は	。	こ	の	よ	う	な	思	い	に	は	經
験	と	せ	た	く	な	い	と	思	い	ま	し	た	。	そ	れ	に	。	私	は		
出	来	る	た	け	復	興	と	は	直	接	か	か	わ	り	た	く	な	い	と		
思	う	の	で	は	な	く	。	逆	に	直	接	か	か	わ	っ	て	行	き	。		
原	子	力	発	電	所	を	無	く	し	て	今	後	こ	の	よ	う	な	こ	と		
が	無	い	よ	う	に	し	た	。													

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 荒 研太

年齢 13 歳

職業・学校名 飯館中学校

2011年3月11日に、東日本大震災が
 おこりました。その地震により、原子力発電
 所が爆発し、放射能がぼくたちのところまで
 広がりました。そのときぼくは、小学校2年
 生だ、たのびその被害がどれほど大きかった
 ものかは、知りませんでした。学校に行くと
 何人かの友達がいなくて、とても悲しくて、
 震災はこんなにかくさんの人を悲しませるも
 のなんだなとそこで初めて実感しました。そ
 れからずっと、飯館村の3つの小学校が
 一緒になり、不安でいっぱい生活を送って
 いました。

今後は、東日本大震災の苦しみ、悲しみを、
 たくさんの人に知ってもらい、少しでも復興
 の力になれるようにしていきたいです。また
 日本だけではなく、世界で大きな災害がおきた時
 にも支援をしていけるようにしたいです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 新川一輝 年齢 13歳 職業・学校名 飯館中学校

2011年3月11日に、東日本大震災が
 おこりました。自分はまだ2年生だ。たの
 震災がどれだけ大きき被害だ。たというの
 分からな「歳」でした。原子力発電所で爆発が
 おこりました。原発が壊れたため、電気はこ
 ない、お風呂も入れない状態でした。電気は
 きてないので、TVも見れず何があったのか
 分からなくてとても不安でした。それにス
 ーパーもやられていなくて、食料が少なくて、毎
 日が苦しかったです。

今後の自分の目標は、東日本大震災がおき
 た時に、すぐさま支援してくださった方に、
 恩返しができるようになる大人になりたいです。
 また東日本大震災のような大きな災害がおき
 た時は、一人一人が協力してまた新たに平和
 な生活がおこれるようにする事です。

「東日本大震災の体験談と復興への願い」麻薬用紙

匿名希望

ぼくは、当時6才でした。家にかえって家でテレビを見ていてきゅうに「かたがた、かたがた」という音がして、お母さんスマホから音がして、まどにおいていた金魚の水が、びちゃびちゃ回りに、水がとびちっていて金魚もおどろいていぼくが金魚をもつてみんなを外にでたら、しろないおばあさんが「外は電柱とかかたおれてくるかわしれないからつくえにかくれていたほうがいいといわれて、金魚を外においてつくえにかくれていました。電気も水もながれなくなっちゃったので山にいって山水をくみにかよいました。お父さんが大きいトシ入る水タンクをもつてきました。バケツにたっぱり水を入れてさんじよのみんなに水をくばってました。そして、タンクからみんなの水をとれるような場所に置きました。そして「今でもあの時は助かったんだよ」と言われます。水のありがたさが分かりました。これから水を大切にしたいと思えます。

氏名 佐藤 安美 年齢 13歳 職業・学校名 飯館中学校

震災から約5年、こうして勉強していられることを震災直後の自分では想像もできなかった。2年生でわりう若いとき、まだま
 だ将来に希望が満ちあふれていた時期におこ
 った東日本大震災。その震災は、お年寄り達かたがの身体を悪くし小さな赤子の人達の育つ環境
 を悪くし、小中学生の子ども達の性格、心をも変えてしまった。そうい、た環境の中、私
 達子どもは笑顔を絶やさなかった。あんな辛い
 ことかあったにも関わらず、いつても無邪
 気に笑っていた。きっと大人はそんな子ども
 達の笑顔に元気をもらっていたんだと思う。
 まだ私は子どもだが、将来は必ず復興に関
 わりたいと思う。でも復興に直接関わるとい
 うのには少し抵抗がある。だが、全く復興に
 関わりたくないというわけではない、私は将
 来、世界で仕事をしたいと思っている。その
 収入を寄付して復興の役に立ちたい。お母さん
 さん、復興に寄付というのをはさんで関わりた
 いと思っている。だが、復興というのはい金

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

匿名希望

僕は、震災後、飯館から松川に行きその
 仮住居に住みせまい所で生活していました。
 物の置くスペースがなか、たり風呂の湯がわ
 かせなか、たり夏が暑く冬が寒く、エアコン
 がなか、たりなど色々大変な事がありました
 親も仕事に行く時、車はいらなかつたけど、
 飯館まで行くのに車を買って仕事に通って、
 存にかえってくるようになかんじてしたが、今
 は新しい家を建て、親も新しい仕事に就いて
 今はとても快適に過ごせています。

◇
 今後の目標でぼくは今、自動車関係の仕事
 に就きたいと思つてがんばつています。その
 目標のため、もっともっと勉強して、高校に
 入って目標に向けてがんばりたいです。

匿名希望

震	災	の	時	、	一	番	大	変	だ	、	た	の	が	電	気	が	こ	な	
か	、	た	こ	と	で	す	、	水	は	井	戸	水	だ	、	た	け	れ	ど	、
じ	や	口	か	ら	は	水	が	出	ま	し	た	、	電	気	が	こ	な	か	、
た	た	め	、	夜	は	ロ	ウ	ソ	ク	で	い	間	に	ぶ	と	ん	を	た	く
さ	ん	も	、	ア	キ	ア	み	ん	な	で	寝	ま	し	た	、	そ	の	後	数
日	間	ず	、	と	そ	ん	な	生	活	を	し	て	い	ま	し	た	、	け	れ
ど	そ	の	後	、	発	電	機	を	か	り	ア	つ	け	よ	う	と	し	た	と
た	ん	電	気	が	つ	き	ま	し	た	、	僕	達	は	び	、	く	り	し	て
発	電	機	を	見	る	と	、	発	電	機	は	動	い	て	い	ま	せ	ん	で
し	た	、	本	当	に	電	気	が	通	、	た	ら	し	く	、	家	族	で	家
に	散	ら	か	、	た	割	れ	た	物	を	か	た	づ	け	た	り	し	ま	し
た	、	そ	の	後	ひ	な	ん	す	る	こ	と	が	分	か	り	、	子	供	と
母	は	先	に	ひ	な	ん	し	ま	し	た	、	父	と	祖	父	母	は	牛	が
い	た	か	ら	で	す	、	そ	し	て	家	族	み	ん	な	が	ひ	な	ん	し
終	り	ま	し	た	、														
僕	は	飯	館	を	元	通	り	に	し	て	ほ	し	い	と	い	う	の	も	
あ	る	け	ど	福	島	市	に	住	ん	で	い	た	い	と	い	う	思	い	も
あ	る	の	で	ま	ず	は	元	通	り	に	し	て	ほ	し	い	で	す	、	あ
と	日	本	の	原	発	は	み	ん	な	な	く	し	て	ほ	し	い	で	す	、